

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『安心できる居場所をつくり よき理解者となり その人らしい暮らしを目指します』という理念を事務所をはじめ、ユニット玄関にも掲げており、支援している	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を基に日々入居者と関わっているが、確実な共有化は出来ていない	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のミーティング時に理念の内容について話し合う ・出勤時に各々が理念を確認する
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	各玄関にはひだまり理念を掲げているが、なかなか来れない家族や地域の方に日々の取り組みなど理解していただけるような事はなかなかできていない	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひだまり新聞に理念に基づいた取り組みなど取り入れる ・地域を散歩したり、お茶会に誘ったり、もう少し地域を巻き込んだ展開をする必要もある
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	挨拶は心がけており、またイベントなどの時は声をかけているが、まだ、気軽に立ち寄っていただけるようにはなっていない	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の方が気軽に立ち寄って頂く前に、こちら側がもっとオープンにならなければいけない。職員だけが動くのではなく入居者も巻き込んで行動を起こしたい ・外に出てひだまりと入居者生活を見ていただく ・イベント時はチラシを作り、入居者と配りにいく
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域主催の行事には参加できていない ふたば園、長浜神社の祭りには参加している	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりを知って頂く為にも身近なことから参加はしていきたい。清掃活動など。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価されたことはミーティングにて共有できており、出来ることから改善に取り組んでいる。また、今回はパート職員も含め全職員が自己評価を行い意義を理解できた	○	・今後も全職員が自己評価を行う ・評価されたことを具体化し全職員で取り組む
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、毎回各ユニットの現状やひだまりで行われたことなど報告している。また、毎回入居者に参加していただきひだまりでの暮らしについて話をしている。入居者の参加もあり場が和み意見や感想も以前より出ているように感じる	○	・入居者の参加により、場の雰囲気は良くなってきているので継続していきたい ・参加した職員も何か意見をもって参加すると話も弾むのではないかと
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいない		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	他ユニットに成年後見、権利擁護事業を利用している入居者がおられるが、内容理解に結びついていない。勉強会も行われていない	○	・学習会を開催する
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり内でそのような事がない様に職員同士注意してみている。 ひだまりとしての虐待の学習会は開催されていない	○	・学習会を開催する ・日々職員同士が注意しあう(コミュニケーションも含め)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約書類に目を通していただき、説明の上同意を得ている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者が職員等に意見等を言えるような定期的な機会を設けていない。ただ、日常生活の中で利用者に耳を傾け、すぐに解決できるようにユニット職員をはじめ、話し合いをし問題解決に取り組んでいる</p>	○	<p>・職員にではなく、家族や外部の方に不満を言われる機会がないので、面会時には家族で話していただいたり、外部であれば運営推進会議の時にでも言える様な環境作りも必要</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>よく面会に来られる家族にはその都度報告をしている。なかなか面会に来れない家族には、変わった事があればすぐに電話連絡と、手紙をおくっている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>第三者委員設置しており、文章の配布、説明も行っている。各ユニットの玄関に意見箱を設置しているが意見はなかなか入らないが、運営推進会議に参加していただき、意見を出してもらおうようにしている。</p>	○	<p>・家族と職員がよい関係を築いていないと、家族側は言いたいことも言えないので、面会に来られた時は声をかけコミュニケーションを図り、言いやすい状況を作っていくべき</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月、ミーティングを開いている。また、必要時に午後最初の送り時にも簡単な意見交換会を開くこともある。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>職員人数が少なく厳しい日もあるが、大体はあらかじめ人手がいる日には職員体制をあつくりたりなど、バランスよく勤務が調整されている。また、出勤職員はその日の職員人数、配置をみながら他ユニットへ手伝いに行くなどの動きもしている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>異動により、何人かは少し動揺がみられたが、どの職員も全ユニットの把握に努めていたので、馴染みの関係が築けており、ダメージは少なかった。</p>	○	<p>・どの職員も自分のユニットだけでなく他のユニットにも目を向けて積極的に関わっていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修、園内研修と幅広い研修を提供してもらっている。研修には数人しか参加できないが、復命書をはじめミーティング等で事後報告の場があるので確認が取れている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことを活かして学習会の開催 ・パート職員の研修参加
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	出雲市のグループホーム協会に参加しているので、研修があれば交流している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか交流の場は持てないので、入居者も交えて他のグループホームに訪問して交流をふかめるなどしても良いのでは。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	勤務間隔や、休日は配慮していただいている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のストレスを軽減する話し合いの場を得たい ・希望急がもう少し取れる環境も必要
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	向上心をもって働けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人自身からよく聴く機会を作っていないが、日々の食事やお茶時に会話を通して不安を受け止め力になる努力をしている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本人を知るためにも入居当初が一番大切なので、他ユニットの職員と連携をとり、出来るだけ深く関われる時間を作る
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の調査の時や、入居されてからも不安に思われていることは話を聞くように努めている。面会時に本人の様子も報告できている。		利用者も大切だが、家族との関係も非常に大切なので、努力しないとけない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のアセスメントを基に、徐々に馴染める様な雰囲気を作っていくよう努力している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や、掃除など場面を上手く作り出し、一緒に行いながら支えあっている。 1人ひとりの個性に合わせながら、その都度対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	よく来られる家族とは、入居者を交えながら一緒に共有する事を心がけているが、遠方の家族等は、なかなか共有しながら支える関係には出来ていないのが現状である。	○	・ケアプラン等支援を共に考える ・遠方の家族には、本人の変化と共に状態報告をする
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が望まれていることはケアプランを通じて理解に努めている。それに伴い、日々の状態や様子などは電話や手紙等で報告し、関係を築いている。	○	・実際に深く本人と関わったりする場がなかなかもてないので、カフェなど行事の知らせを送り参加していただくように勤める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆どの方が馴染みの関係は薄れてきているが、会話の中から昔行っていた場所等を聞き、外出したりはしている。	○	ご本人のアセスメントをしっかりと、馴染みの関係を回復していかなければならない。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に孤立した生活スタイルをとられているが、食事やお茶はみんなで摂っているので、職員が間にたち利用者同士が関われる場を提供している。 また、他ユニットへ足を運ばれる方もおられるので、その思いを大事にしたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを聴き、一人ひとりの意思を尊重して対応している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント不足で、未だに把握しきれていないこともあるが、日々の関わりや、家族訪問時の時に情報を得たりなど努めている。	○	今後も継続してアセスメントを行い、本人に合ったケアを行いたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌や個人カルテに目を通し、継続して入居者の状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月ごとに利用者の状態に合わせたケアプランの見直しを行い、カンファレンスにて話し合いをおこないケアプランを作成しているが、本人や家族の意向が十分に反映出来ず、職員の意見中心の介護計画書になっている。	○	必要に応じては本人、家族とともにケアプランを作成すべなのもかもしれない。 今後、カンファレンスへの家族参加を計画していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しと共に、カンファレンスをおこなっている。現状が変わった時すぐに話し合いをし、新しいプランを作成している。 本人、家族には意向は聞くが、プラン作成時の話し合いはおこなっていない。	○	・定期的な、カンファレンスの時間を作る ・必要に応じて本人、家族との話し合いの場を設ける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的日誌、個人カルテの記入を全職員がしており、共有できている。 記録から、ケアプラン作成にもつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要求をされた時は、出来る限り答えて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・時々ボランティアの方にお願ひし、踊り等披露して頂いている	○	・もう少し、地域との交流必要。地区の習字教室など出向いても良いかもしれない
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを活用した支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診・往診支援はできている。 入居当時に本人・家族の意向を元に適切な医療を受けられるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の大半は内科医で、精神科医を受けておられるのは1名である。認知症の専門医の受診・往診等はないが、診断・治療を受けられる体制にしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在看護師不在の為、医療面のケアが十分ではない。何かある時は、すぐにかかりつけ医に連絡、同敷地内の特養の看護師に連絡をするなどし、連携をとっている。	○	・専属の看護師の配置
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報提供書、日々の暮らしぶりなど記載し入院先に渡している。退院時も病院から渡してもらっている。また、気になることは電話連絡にて情報を交換している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた場合、家族と今後について話をしているが、ひだまりでどこまで看る事が出来るのかと話は共有化されていない。	○	・本人・家族・施設との具体的な話し合い必要
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員も出来るだけひだまりで見ていきたい気持ちがあり、出来る事は自分たちでするように協力している。それに伴い、かかりつけ医と連携をとり今必要な支援は取り組んでいる。	○	現在、重度や終末期の入居者はおられないし、今後もどこまでひだまりで見ていくのか検討や準備が必要と感じる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の所でも継続的なケアが出来るように情報提供書を渡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護は徹底している。 時々、馴れ合いの言葉かけもあるが、個々の尊厳を大切にしている	○ ・言葉かけは職員の意識の問題なので、職員同士でもお互いに私的し合うようにする
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の個々の力に応じて説明を行い、主張を活かした支援をしている。 自分で決められるように職員は1歩ひいてケアしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人出がない時など、訴えを後回しにしてしまう時もあるが、出来る限り利用者がその時何を望んでおられるのか、その時の解決できることはその都度行うようにしている。	○ ・職員主体ではなく、利用者主体とで支援する ・その時人出がないのなら、他ユニットの職員にお願いするなり、周りとの連携をとる
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、起床時に身だしなみの声かけしている。 散髪は、本人の希望時に行きつけの理容・美容店に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者の方には声かけをし、一緒に食事を作ったり、準備や片付けをしている。	○ 今は、ある程度早い時間に作って時間がたってから食事となるので、作ったことを忘れておられることがおおいので、作ったらその時に食べれるように流れの中での支援も必要。また、台所に立てない利用者もおられるので、時々食卓の上で目の前で何かを皆で作る支援も必要。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者に今日は何にするか聞くようにはしているが、なかなか返事がなく、こちらで決めてしまうことが多い。	○ アセスメントを通して、時々各々に合ったものを提供する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録等から各々の排泄パターンを把握できているので、気持ちよい排泄の支援はできている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成し一応入る日や時間帯は職員側が決めてはいるが、その日の状態や本人の希望により入ったり、入らなかったりと支援している。	○	出来る限り、本人の希望にそった入浴を提供していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲労感や生活のリズムを観察しながら支援している。夜眠れない方は、ゆっくり話を聴いたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に合わせて、昔されていた事を中心に声かけし提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理しておられる方もおられ、買い物時は本人に払っていただいている。こちらで管理している方には、職員がすべてしてしまっている。	○	支払のときは、本人にってもらうなど、お金を考える時必要
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿うことはなかなかできないが、出来る限り希望時には外出できるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足やドライブなど計画し実行している。また、個人個人で行きたいけどなかなかいけない所にはあらかじめ計画を立てて出掛けるようにしている。	○	もっと御家族にも相談・協力を得て、外出する機会を多くつくれるように計画をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
		○	再研修の提供
		○	定期的な学習会開催 ・誤薬に関して、いかに誤薬は危険なのか、職員の意識改革並びに、見やすい薬の提供方法を考えなくてはならない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回行っている(救急法)	○	ある程度、定期的に訓練を受けたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練をおこなっている。 避難訓練時は地域の方にも参加して頂き訓練している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険と感じた事は今後の対応策も含め御家族に連絡している。大体がこちら側の意見を説明し同意して頂いている事が多い。	○	御家族と共に対応策を考えるようにしていきたい。その為にも話し合える場を設ける事が必要となってくる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を感じた時は、他の職員にも報告し対応している。 変化時には記録に残しているので情報の共有も出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイル、カルテにも説明書は載せているが、全職員が内容までは把握しきれていない。	○	・各々の薬の用法をまとめたものを提示すべきか。 ・疾病、薬についての学習会
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を確認し、必要に応じて水分補給、運動と個々に合わせた対応をしている。	○	運動の機会の提供(継続化)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員は出来ていない 就寝前には歯磨きができていないが、毎食後はできていない。	○	毎食後、本人の状態にもよるが出来るだけ口腔して頂くように誘導をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて調節して提供できている。	○ 体重の増減や、一人ひとりの状態に合わせて対応していきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応の取り決め(マニュアル)がある。 現在もハイター消毒など継続して実行している。	○ ・予防の継続化 ・研修会の開催
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒に関する予防策は管理栄養士から説明をうけたり、市から送られてくる食中毒警報など頭にいられている。 マニュアルもあり確認している 食材チェックはユニット職員が行っている まな板や、食器など定期的に消毒している	○ ・全職員の徹底(学習会開催) ・予防の継続
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも入れるようにしておりきれいに心を掛けている。 また、花など季節に合った物を飾って来られた時に気持ちよく感じられる空間にしている。	○ 利用者が作られたものなど展示する
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔には気をつけているが、広い空間なのでゆっくりと落ち着いた雰囲気はあまり作り出せていない。 職員や、利用者の家族から頂いたお花はみんなが見えるところに飾っており、季節感がありよい。	○ 装飾を明るめのものにしたり、落ち着ける空間を作るために馴染みの物を置いている。 また、季節が分かるような装飾をするように心掛ける。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれる時は皆さん自室にもどられる。利用者同士で話ができるスペースは確保してありゆっくり過ごされる。	○ 共用スペースに一人になれるスペースを作る

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居心地よく過ごせるよう、本人、家族と相談し居室に配慮して いる。 出来る限り、今まで使われていたものを持ってきていただくよ うに声をかけている。	○	定期的に本人・家族と話し合い、居心地のよいスタイルを 作り上げていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	共用スペースには湿度・温度計を設置しており、日々チェック している。居室に関してはこまめに訪室しその都度温度調節 や換気をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	身体機能を活かした安全な環境づくりができています。 個々の合わせて居室に手すりをつけるなど。	○	共有スペースに手すりなど、今後の利用者のADLに応じた 配慮が必要
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりに応じた説明をしている 混乱や失敗を極力防ぐように職員は支援している	○	職員の継続化
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や居室の庭に花や野菜を植え、定期的に水やりをする などし楽しみを得ている。	○	外にテーブルを用意してお茶会などしてもよい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・何か要望があれば、出来るだけすぐに行えるように取り組んでいる
- ・各入居者の庭や中庭に季節の野菜を植え育て、収穫し皆さんで楽しんでいる
- ・1ユニット6人なので、ゆったりとした個々の時間もあり、細やかな支援ができています
- ・出来る限り、利用者主体の生活になるように日々取り組んでいる